



下末吉だより

令和8年8月31日

9月号

横浜市立下末吉小学校

「誰もが」「安心して」「豊かな」学びを実現するために

校長 千葉 寛興

8月28日に横浜こども会議鶴見区交流会が開催されました。この取組は平成25年から毎年実施されています。今年は「いじめをしない、させない、見逃さない ～つながる、広がる、いじめの未然防止の輪～」をテーマに、区内の市立小・中・高校の代表者が集まって話し合いを行いました。

話し合いでは、各校の代表の子どもたちが、それぞれの学校での取り組みや自分の考えを交流しながら、いじめをなくすために必要なことを考えていきました。その中で、多くの子どもたちが、「お互いの考え方の違いを認めること」や「互いを知る場面を設けること」、そして「見て見ぬふりをしない」について、指摘していました。そして、周りの大人には、「相談できる体制づくり」や「多面的な子ども理解」を進めてほしいなどの意見が出されました。この会議に参加して感じたことは、子どもたちは、自分たちが取り組むべきことを適切に理解しているということです。そのことは一人の大人として、とても安心しました。同時に、学校や大人がいじめを防止するために、より一層の努力が求められているとも感じました。

さて昨今では、いじめは、児童生徒の心身の健全な成長や人格形成に重大な影響を及ぼす深刻な人権侵害であるという認識が広く浸透してきています。その根底には、いじめ防止対策推進法における、「児童生徒が一定の人的関係にある他の児童生徒から心理的又は物理的な影響を与える行為を受け、心身の苦痛を感じているもの」という、いじめの定義が浸透してきたこととも関連しています。また、いじめへの対応においては「未然防止」「早期発見」「早期対応」を柱とし、全ての子どもを対象とした、成長を支える、発達支持的生徒指導を重視しています。

子供たちの成長を支えるために、まず学校には、いじめをどの子どもにも起こり得る問題として捉え、組織的に対応することが求められます。日常的な観察や教育相談、アンケート等を通して早期発見に努めるとともに、教職員間で情報共有を行い、学校いじめ防止対策組織を中心とした対応を進める必要があります。また、授業や行事、児童会活動を通して自己有用感を高め、安心して過ごせる学校風土をつくるのが、いじめの未然防止につながります。

また、保護者を含めた周りの大人には、安心して相談できる環境を整え、日頃から子どもの変化に目を向けていく必要があります。そして、他者を尊重する態度や規範意識を生活の中で育むとともに、いじめが疑われる場合には家庭と学校が連携して支援に当たることが重要です。家庭と学校が信頼関係を築き、共通理解の下で子どもを支えることが、早期発見と適切な対応につながります。保護者の皆様におかれましては、引き続きご協力をお願いいたします。

このように、いじめの防止と解決は子ども、学校、周りの大人の協働によって実現されます。子どもが互いを尊重し、学校が組織的な支援体制を整え、家庭や地域から支えることで、誰もが安心して学び生活できる環境が生まれます。いじめ防止の理念と横浜こども会議の実践を踏まえながら、「誰もが」「安心して」「豊かな」学校生活を営めるよう、下小の教育活動の充実に努めていきたいと思います。



下末吉小学校 HP